

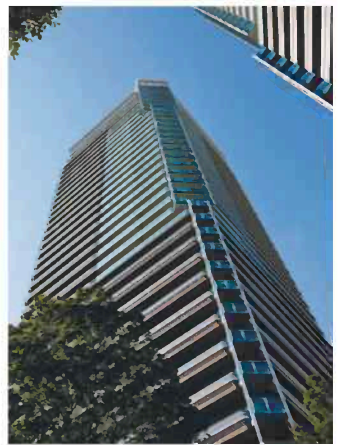
マンション 子育てが売り

郊外、共働き呼び込む

が、全494戸の5割超が契約済み。マンション全体が完成する8月を前に販売が進んでいる。

学童保育施設の誘致など子育てのしやすさを前面に打ち出している。住民の子供専用の英会話教室もこの一環だ。ベネッセコーポレーションが運営し、共用施設のパティールームを使う。受講費は通常の教室と同じ月5500円からだ。

社は専業主婦らを「ママサポーター」として育成。住民の子供を一時的に預かるほか、マンション住民の交流会も主催する。



三井不動産は千葉県柏市の賃貸タワーマンションに住民の子供が優先的に入れる保育園を併設した

は野村不動産の「ブラウドシティ浦和」(さいたま市)など少ない。マンション住民で児童2人を通わせる母親(39)は「外にある教室と違い、夕食の支度などで忙しい時間帯に子供だけで行かせられる」と喜ぶ。

ファイインシティ甲子園(兵庫県西宮市)に住む浦本千賀さん(30)は「顔見知り同士なら気軽に子供を預けたり預かったりできるので助かる」。同じマンションでママサポーターとして交流会を開く井川舞さん(28)は「住民の交流をもっと広げたい」と語る。

は2月に完成したマンション「ファイインシティ枚方」(大阪府枚方市)などで子育てを助け合う「子育てシェア」サービスのアズママ(横浜市)と連携した。同

県柏市の36階建ての賃貸タワーマンション「パークシティ柏の葉キャンパス」(28)は「住民の交流をもっと広げたい」と語る。

保育園優先入園や英語教室

住民の子供専用の英会話教室や優先的に入れる保育園など、子育てのための機能が充実したマンションやアパートが相次ぎ登場している。東京都心部や大阪中心部より通勤時間が長い郊外の物件が目立つ。共働きで仕事と子育てに忙しい世代にとって、「育て勝手の良さ」が新居選びの鍵となりつつある。

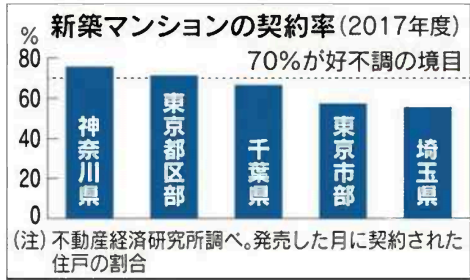
「英会話教室などの子育て支援施設が決め手になった」。購入者の3割がこう話すマンションがある。三菱地所レジデンスなどが販売中の「ザ・パークハウス国分寺四季の森」(東京都国分寺市)だ。

3LDKで5千万円台前半が中心だ。JR国分寺駅から徒歩13分とやや遠い



マンションの共用スペースで住民の子供専用の英語教室が開かれている (さいたま市)

賃料は2LDKで月19万円前後が中心。柏市では高めたが「東京都内の子育て世代からの問い合わせが増えている」(三井不動産)。保育園と同じ階には学童保育施設や両親の帰りが遅いときに子供だけで使える食堂も併設。「子育てに必要な機能を1カ所に集めて利便性を高めた」(施設を運営するマザープラネット)。柏市IIの藪本敦弘社長) 賃貸アパートにも動きは広がる。旭化成ホームズは首都圏で「ヘーベルメゾン母力(ぼりき)」を10件展開する。子供を遊ばせながら住民同士が交流できるよう敷地内に中庭を設けた。2月完成の「母力あさか」(埼玉県朝霞市)は最寄り駅まで徒歩16分。周辺物件より家賃も月5千円ほど高いが全6室が埋まった。子育てを支える物件は一段と増えそうだ。(蛭田和也)



子育て支援を充実させた郊外のマンションが人気を集める背景には都心の販売価格の高騰がある。不動産経済研究所(東京・新宿)によると、2017年度に首都圏で分譲されたマンションの平均価格は5921万円。バブル期の1990年度以来の高い水準だ。2000年代半ばまでの価格低迷期は東京都心部で

都心、販売価格が高騰 「育住近接」を重視

も普通の会社員が買える物件は珍しくなかった。今や高所得世帯以外は手が届かない物件が多い。郊外は通勤時間が長いので、忙しい共働き世帯は購入をためらいがちだ。ただ、郊外の駅から離れた物件なら普通の会社員でも手が届く。都心のように保育園探しに奔走し、子供を預けられずに職場復帰できなくなるに増える」とみている。